

武蔵野市文化施設の在り方検討委員会

～中間のまとめ～

※目次案とこれまでの意見等まとめ

2020年1月28日時点（途中段階）

※ 本資料は、これまでの委員会における委員発言や、事務局資料をベースとして作成しているものです。今後根拠データの有無や論点のバランスなどをみながら、内容を修正していくものです。

目次（案）

1. はじめに

2. 検討の背景

3. 現状のレビューと評価

(1) 市全域の視点から — 全体レビュー —

- ① 施設の配置について
- ② 施設の有効活用の現状と課題

(2) 個別施設、駅勢圏の視点から — 個別レビュー —

- ① 武蔵野市民文化会館
- ② 武蔵野公会堂
- ③ 武蔵野芸能劇場
- ④ 武蔵野スイングホール
- ⑤ 吉祥寺シアター
- ⑥ 吉祥寺美術館
- ⑦ 松露庵
- ⑧ かたらいの道市民スペース

4. 将来を見据えて

1. はじめに

2. 検討の背景

3. 現状のレビューと評価

(1) 市全域の視点から — 全体レビュー —

① 施設の配置について

- ・ 本市の文化施設は8施設（武蔵野文化事業団が所管する「かたらいの道市民スペースを含む」）あり、そのうちホール機能は5施設6か所となる。多摩地域の中では多い方であり、隣接する杉並区（3施設6か所）、練馬区（3施設4箇所）と肩を並べている。
- ・ 施設は吉祥寺、三鷹、武蔵境の3つの駅勢圏にそれぞれバランスよく配置されており、コンパクトな市域であることとあわせて利便性が高い。このことが利用率の高さや、市内在住者だけでなく市外からも多くの利用者が訪れていることにもつながっている。
- ・ 本市の公共施設配置の考え方のベースとなる三層構造に照らし合わせると、全市的施設配置として市民文化会館が位置づけられ、ホール機能の駅勢圏配置として武蔵野公会堂、武蔵野芸能劇場、武蔵野スイングホールを位置づけることができる。吉祥寺美術館や吉祥寺シアター、松露庵は単一目的施設であり、三層構造の観点からみればそれぞれ全市的施設配置あるいは市民文化会館のランチ施設として位置づけることができると考える。なお、かたらいの道市民スペースは文化的活用の要素が低い施設であり、むしろコミュニティレベルにおける集会施設とみなすことができる。

② 施設の有効活用の現状と課題

ここでは市全域を俯瞰し、文化施設が現状どのような形で有効活用され、今後を見据える上でどのような課題を抱えているかをレビューしていく。

○ 駅勢圏ごとに配置されている文化施設

- ・ 近隣からの来街者が多く、交通の結節点を持つ吉祥寺。企業立地やオフィスが集中し、働く人が多く利用する三鷹。大学に通う学生が多く生涯学習機能が集約している武蔵境。駅勢圏がそれぞれ個性を出している本市において、圏域ごとに芸術文化施設が配置されていることはユニークな点と言える。
- ・ しかし地域における文化施設の活用という観点から見ると、例えば「武蔵境 JAZZ AESSION」（主催：武蔵境商店会連合会、武蔵野市観光機構。地域の高校、大学

と連携したプログラムを武蔵野スイングホールで展開)などの地域連携事業も一部で行われているものの、まだまだ活用の余地があると言える。

- ・ 施設利用実態を見ると、武蔵野公会堂や武蔵野芸能劇場、武蔵野スイングホールなどは、講演であったり、団体や企業等による会議室利用であったり、芸術文化以外の利用も見受けられる。これは立地の良さや使い勝手の良さがあるとも言えるが、武蔵野プレイス等の生涯学習施設やコミュニティセンターといった他分野の施設との住み分けについて検討する必要がある。

○ 施設を活用した芸術文化事業の展開

- ・ 音質に定評がある市民文化会館小ホールを生かしたクラシックコンサートを中心として、武蔵野文化事業団の主催事業は従前より市内外から高い評価を得ている。
- ・ 事業企画スタッフが常駐している市民文化会館、吉祥寺シアター、吉祥寺美術館では、それぞれが施設特性を生かしながら質の高い事業を展開しており、この点は高く評価されるべきであろう。
- ・ また、文化振興基本方針が平成 30 年に策定されて以降は、その分野に精通した愛好家から初心者層に至るまで、ターゲット層の幅の拡大を図っており、市の芸術文化振興のすそ野拡大にも積極的に施設が活用されていると考えられる。
- ・ いわゆるパフォーミングアーツ系の事業が充実しており評価できる一方で、育成、連携、作品の展示といったところは弱さがみられることから、このあたりは改善を期待したいところである。

○ まちのにぎわい創出への貢献

- ・ 市外から施設へ来訪する人が多かったり、アルテ友の会に 3,000 人超の市外会員がいたりするものの、それらがまちのにぎわいにつながっているかどうかが見えてこない。
- ・ 地域で開催されるイベントに施設を貸し出すなど、地域に協力しているものも見受けられるが、駅勢圏ごとに施設が配置されているという強みを生かした、さらなる連携の推進を期待したいところである。
- ・ 市外から来た人が、駅からある程度歩いた場所で日常と違ったものを楽しみ、その後駅へと戻る途中で「ちょっと寄っていこうか」となるような、まちのにぎわいに貢献できるような動線を作り出していく工夫をしていく必要がある。

○ 今後を見据えて

- ・ これからの文化施設を考える上では、「交流」の生まれるコミュニティ空間を意識していく必要がある。
- ・ 閉鎖的ではなく開放的な空間としての施設、交流を生み出す施設としての役割を

考えた場合に、現在の各施設はこれを満たせているとはいえない。将来において施設の建て替えを考えていく際には改善が求められるところである。

- ・ 次世代に必要な、アートで個性を育む、可能性を引き出していけるような、創造活動を支援するアーツセンター的な役割が今の施設には弱いところである。文化振興基本方針に照らし合わせたうえで、「誰もが、個性や可能性を芸術文化で発表して、花開かせることができるような機能や設備、しつらえ、運営」を強化していくことが求められている。
- ・ 交通の結節点であり、市域を超えた集客力を持つ吉祥寺地域を筆頭にして、本市の文化施設はそこに集客機能を持たせることもできる可能性を持っている。
- ・ しかし、外から誘客してまちに賑わいを生んでいく方向性と、市民の利用に供していく方向性は相反する面がある。
- ・ この点において現状各施設の特性はあいまいなままである。このままいくのか、施設によって色分けをしていくのかなど、吉祥寺グランドデザインや三鷹駅北口街づくりビジョンなどとも歩調を合わせながら、今後の施設活用にあたってはこの点を検討していく必要がある。
- ・ 施設の可能性を引き出し、芸術文化施策の充実やまちのにぎわい創出に貢献していくためには、相応の人員配置にも配慮する必要がある。

・

(2)個別施設、駅勢圏の視点から 一個別レビュー

① 武蔵野市民文化会館

- ・ 市民文化会館の、特に小ホールの音質の評価は高いものがある。クラシックを中心に展開している主催公演には市内外からの評価も高く、ここでの公演が NHK-BS 放送で放映されることもある。著名なチェリストが毎年誕生日リサイタルを催すなど、本市にとって市民文化会館の小ホールは貴重なものとなっている。

② 武蔵野公会堂

③ 武蔵野芸能劇場

④ 武蔵野スイングホール

⑤ 吉祥寺シアター

⑥ 吉祥寺美術館

⑦ 松露庵

⑦ かたらいの道市民スペース

4. 将来を見据えて